

表1 各選択コース内容の満足度

		コース内容の満足度				合計
		とても満足した	まあまあ満足した	あまり満足しなかった	全く満足しなかった	
コース 受けた	中級編	15人(29.4%)	34人(66.7%)	2人(3.9%)	0人(0.0%)	51人(100%)
	基本編	7人(17.1%)	29人(70.7%)	5人(12.2%)	0人(0.0%)	41人(100%)
	初級編	14人(37.8%)	19人(51.4%)	4人(10.8%)	0人(0.0%)	36人(100%)
合計		36人(27.9%)	82人(63.6%)	11人(8.5%)	0人(0.0%)	129人(100%)

表2 各選択コースの適性度

		コース内容の適性度				合計
		とても合っていた	まあまあ合っていた	あまり合っていなかった	全く合っていなかった	
コース 受けた	中級編	17人(33.3%)	28人(54.9%)	4人(7.8%)	2人(3.9%)	51人(100%)
	基本編	10人(24.4%)	28人(68.3%)	3人(7.3%)	0人(0.0%)	41人(100%)
	初級編	13人(36.1%)	13人(36.1%)	9人(25.0%)	1人(2.8%)	36人(100%)
合計		40人(31.3%)	69人(53.9%)	16人(12.5%)	3人(2.3%)	128人(100%)

表3 コースの適性度とコースの満足度

		コース内容の満足度				合計
		とても満足	まあまあ満足	あまり満足しない	全く満足しない	
コースの 適性度	とても合っていた	25人(62.5%)	15人(37.5%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	40人(100%)
	まあまあ合っていた	9人(13.0%)	58人(84.1%)	2人(2.9%)	0人(0.0%)	69人(100%)
	あまり合っていなかった	1人(6.3%)	8人(50.0%)	7人(43.8%)	0人(0.0%)	16人(100%)
	全く合っていなかった	0人(0.0%)	1人(33.3%)	2人(66.7%)	0人(0.0%)	3人(100%)
合計		35人(27.3%)	82人(64.1%)	11人(8.6%)	0人(0.0%)	128人(100%)

p<0.01 (有意差あり)

表4 今後、新たなコース受講の希望状況

		新たなコース受講の希望状況				合計
		とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない	
コース 受けた	中級編	10人(19.6%)	30人(58.8%)	11人(21.6%)	0人(0.0%)	51人(100%)
	基本編	9人(22.5%)	11人(27.5%)	20人(50.0%)	0人(0.0%)	40人(100%)
	初級編	13人(35.1%)	20人(54.1%)	4人(10.8%)	0人(0.0%)	37人(100%)
合計		40人(31.3%)	69人(53.9%)	16人(12.5%)	0人(0.0%)	128人(100%)

表5 コース内容の満足度と新たなコース希望

		新たなコース受講の希望状況				合計
		とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない	
コース内容の満足度	とても満足した	10人(27.8%)	19人(52.8%)	7人(19.4%)	0人(0.0%)	36人(100%)
	まあまあ満足した	19人(23.2%)	39人(47.6%)	24人(29.3%)	0人(0.0%)	82人(100%)
	あまり満足しなかった	3人(30.0%)	3人(30.0%)	4人(40.0%)	0人(0.0%)	10人(100%)
	全く満足しなかった	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(100%)
合計		32人(25.2%)	61人(47.2%)	35人(27.6%)	0人(0.0%)	128人(100%)

表6 コースの適性度と新たなコース希望

		新たなコース受講の希望状況				合計
		とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない	
コースの適性度	とても合っていた	12人(30.0%)	21人(52.5%)	7人(17.5%)	0人(0.0%)	40人(100%)
	まあまあ合っていた	13人(19.1%)	31人(45.6%)	24人(35.3%)	0人(0.0%)	39人(100%)
	あまり合っていなかった	5人(31.3%)	7人(43.8%)	4人(25.0%)	0人(0.0%)	39人(100%)
	全く合っていなかった	2人(66.7%)	1人(33.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	36人(100%)
合計		32人(25.2%)	60人(47.2%)	35人(27.6%)	0人(0.0%)	127人(100%)

表7 今後の新たな受講希望コースについて

		希望コース					合計
		上級編	中級編	基本編	初級編	どのコースもあまり聞きたくない	
受けたコース	中級編	9人(19.1%)	8人(17.0%)	3人(6.4%)	20人(42.6%)	7人(14.9%)	47人(100%)
	基本編	0人(0.0%)	12人(30.8%)	0人(0.0%)	11人(28.2%)	16人(41.0%)	39人(100%)
	初級編	4人(11.1%)	19人(52.8%)	11人(30.6%)	0人(0.0%)	2人(5.6%)	36人(100%)
合計		13人(10.7%)	39人(32.0%)	14人(11.5%)	31人(25.4%)	25人(20.5%)	122人(100%)

表8 性のイメージについて（複数回答）

（事前：N=129、事後：N=127）

		あまり聞きたくない		自分には関係ない		恥ずかしい	
		事前	事後	事前	事後	事前	事後
受けたコース	中級編	5人(9.8%)	7人(14.0%)	2人(3.9%)	1人(2.0%)	16人(31.4%)	13人(26.0%)
	基本編	8人(19.5%)	5人(12.5%)	3人(7.3%)	4人(10.0%)	12人(29.3%)	11人(27.5%)
	初級編	6人(16.2%)	3人(8.1%)	3人(8.1%)	4人(10.8%)	10人(27.0%)	9人(24.3%)
合計		19人(14.7%)	15人(11.8%)	8人(6.2%)	9人(7.1%)	38人(29.5%)	33人(26.0%)
うしろめたい		話しづらい		まだ早い		危険なこと	
事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
3人(5.9%)	4人(8.0%)	18人(36.3%)	16人(32.0%)	15人(29.4%)	18人(36.0%)	5人(9.8%)	19人(38.0%)
0人(0.0%)	1人(2.5%)	22人(53.7%)	18人(45.0%)	14人(34.1%)	11人(27.5%)	2人(4.9%)	2人(5.0%)
3人(8.1%)	2人(5.4%)	15人(40.5%)	12人(32.4%)	14人(37.8%)	13人(35.1%)	4人(10.8%)	7人(18.9%)
6人(4.7%)	17人(5.5%)	55人(42.6%)	46人(36.2%)	43人(33.3%)	42人(33.1%)	11人(8.5%)	28人(22.0%)
聞きたい		当たり前のこと		気軽な感じ		大人な感じ	
事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
7人(13.7%)	9人(18.0%)	15人(29.4%)	16人(32.0%)	2人(3.9%)	1人(2.0%)	12人(23.5%)	13人(26.0%)
2人(4.9%)	2人(5.0%)	5人(12.2%)	11人(27.5%)	2人(4.9%)	2人(5.0%)	7人(17.1%)	13人(32.5%)
3人(8.1%)	2人(5.4%)	12人(32.4%)	12人(32.4%)	0人(0.0%)	1人(2.7%)	9人(24.3%)	10人(27.0%)
12人(9.3%)	13人(10.2%)	32人(24.8%)	39人(30.7%)	4人(3.1%)	4人(3.1%)	28人(21.7%)	36人(28.3%)
もっと知りたい		誰もが興味をもつと思わないで欲しい		誰もが性のトラブルについて直面すると思わないで欲しい		その他	
事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
6人(11.8%)	11人(22.0%)	3人(5.9%)	3人(6.0%)	1人(2.0%)	1人(2.0%)	5人(9.8%)	1人(2.0%)
3人(7.3%)	4人(10.0%)	4人(9.8%)	4人(10.0%)	2人(4.9%)	1人(2.5%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
2人(5.4%)	4人(10.8%)	3人(8.1%)	4人(10.8%)	3人(8.1%)	1人(2.7%)	1人(2.7%)	1人(2.7%)
11人(8.5%)	19人(15.0%)	10人(7.8%)	11人(8.7%)	6人(4.7%)	3人(2.4%)	13人(2.3%)	2人(1.6%)
合計							
事前	事後						
51人(100%)	50人(100%)						
41人(100%)	40人(100%)						
37人(100%)	37人(100%)						
129人(100%)	127人(100%)						

【中級編理解度】・・・表9～20

表9 健康的な生活習慣についての理解度

良くわかった	25人(49.0%)
まあまあわかった	24人(47.1%)
あまりわからなかった	1人(2.0%)
全くわからなかった	1人(2.0%)
合計	51人(100%)

表10 性感染症についての理解度

良くわかった	30人(58.8%)
まあまあわかった	21人(41.2%)
あまりわからなかった	0人(0.0%)
全くわからなかった	0人(0.0%)
合計	51人(100%)

表11 性感染症にかかると、身体にかなりの損害をこうむることについての理解度

良くわかった	39人 (76.5%)
まあまあわかった	11人 (21.6%)
あまりわからなかった	1人 (2.0%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	51人 (100%)

表12 性感染症の脅威について

良くわかった	37人 (72.5%)
まあまあわかった	14人 (27.5%)
あまりわからなかった	0人 (0.0%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	51人 (100%)

表13 性感染症にかからないためには、性行動をしないことが最も賢明であるということについて

良くわかった	30人 (60.0%)
まあまあわかった	19人 (38.0%)
あまりわからなかった	1人 (2.0%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	51人 (100%)

表14 性感染症について不安や疑問が高まったか

とても高まった	19人 (37.3%)
まあまあ高まった	27人 (52.9%)
あまり高まらなかった	5人 (9.8%)
全く高まらなかった	0人 (0.0%)
合計	51人 (100%)

表15 何か自分に不安なことがあったら泌尿器科や産婦人科などの病院にすぐにいこうと思うか

とても思う	23人 (45.1%)
まあまあ思う	23人 (45.1%)
あまり思わない	3人 (5.9%)
全く思わない	2人 (3.9%)
合計	51人 (100%)

表16 性感染症について、今までの知識と今日学んだ内容で差があると感じたか

とても感じた	5人 (10.2%)
まあまあ感じた	27人 (55.1%)
あまり感じなかった	16人 (32.7%)
全く感じなかった	1人 (2.0%)
合計	49人 (100%)

表17 性感染症にかかって身体に大きな損害をこうむらないために、性行動に対し、一歩踏みとどまる気持ちが持てたか

とても持てた	27人 (52.9%)
まあまあ持てた	24人 (47.1%)
あまり持てなかった	0人 (0.0%)
全く持てなかった	0人 (0.0%)
合計	51人 (100%)

表18 自分に必要な情報が得られましたか

よく得られた	24人 (51.0%)
まあまあ得られた	26人 (47.1%)
あまり得られなかった	0人 (0.0%)
全く得られなかった	1人 (2.0%)
合計	51人 (100%)

表19 今後、性行動をしないということ（最善の予防策）について

とても思う	26人 (51.0%)
まあまあ思う	25人 (49.0%)
あまり思わない	0人 (0.0%)
全く思わない	0人 (0.0%)
合計	51人 (100%)

表20 講話で印象に残ったこと (N=51)

性行動をしなければ性感染症にならない	27人 (52.9%)
コンドームは、性感染症にかかる確率が低下する	22人 (43.1%)
不妊の原因のひとつである	27人 (52.9%)
他の病気になる確率が上昇する	26人 (51.0%)
生まれてくる子どもに感染する	34人 (66.7%)
性器が、痛くなったり痒くなったりする	24人 (47.1%)

性感染症の中に、治療がなく完治しないものがある	33人 (64.7%)
感染していても気付かない人が沢山いる	34人 (66.7%)
再発して、将来にわたり病氣と過ごすことになる	19人 (37.3%)
自分が感染源となって、周りの人々に移す可能性がある	20人 (39.2%)
年々、性感染症患者数は増加傾向にある	20人 (39.2%)
性感染症は、若い人に多い	35人 (68.6%)
合計	321人 (629.4%)

【基本編理解度】・・表21～25

表21 健康的な生活習慣についての理解度

良くわかった	21人 (51.2%)
まあまあわかった	19人 (46.3%)
あまりわからなかった	1人 (2.4%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	41人 (100%)

表22 性感染症についての理解度

良くわかった	19人 (46.3%)
まあまあわかった	21人 (51.2%)
あまりわからなかった	0人 (0.0%)
全くわからなかった	1人 (2.4%)
合計	41人 (100%)

表23 性感染症にかかると、身体にかなりの損害をこうむることについての理解度

良くわかった	24人 (58.5%)
まあまあわかった	17人 (41.5%)
あまりわからなかった	0人 (0.0%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	41人 (100%)

表24 性感染症の脅威について

良くわかった	24人 (58.5%)
まあまあわかった	16人 (39.0%)
あまりわからなかった	1人 (2.4%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	41人 (100%)

表25 性感染症に感染している人たちへの偏見や差別についての学習について

良くできた	18人 (43.9%)
まあまあできた	22人 (53.7%)
あまりできなかった	1人 (2.4%)
全くできなかった	0人 (0.0%)
合計	41人 (100%)

【初級編理解度】・・表26～27

表26 健康的な生活習慣についての理解度

良くわかった	18人 (48.6%)
まあまあわかった	19人 (51.4%)
あまりわからなかった	0人 (0.0%)
全くわからなかった	0人 (0.0%)
合計	37人 (100%)

表27 健康的な生活への取り組み (N=37)

家族に学んだことを伝える	4人 (10.8%)
身近な人に学んだことを伝える	4人 (10.8%)
ストレスをためない	22人 (59.5%)
夜の危険な外出を控える	9人 (24.3%)
親子の会話を増やす	4人 (10.8%)
たばこを吸わない	27人 (73.0%)
アルコールを飲まない	23人 (62.2%)
薬物に手を出さない	27人 (73.0%)
体を清潔にする	20人 (54.1%)
うがい手洗いをする	26人 (70.3%)
生活リズムを整える	22人 (59.5%)
バランスの良い食事をする	22人 (59.5%)
1日3回規則正しく食べる	27人 (73.0%)
体を動かす習慣を身につける	16人 (43.2%)
リラックスした時間を持てる	16人 (43.2%)
合計	269人 (727.0%)

資料1 事業企画書「全体企画書」

事業のテーマ	性感染症について		
対象者/対象数	〇〇中学校3年生/〇〇名		
実施日	平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)〇時〇分(〇〇分)		
テーマの目的 (短期目標)	1. 自分が望む性に関するテーマ(レベル)を選択して授業が受けられ、満足できる。 2. 性感染症について学ぶことで、性に関するリスクを感じる事が出来る。 (性について触れないグループ以外) 3. 自分の健康について、考える事が出来る。		
長期目標	1. 性に対し、敷居が高まる。 2. 性感染症にかかる確率が低下する。 3. 自分の健康を高めるための行動をとることができる。		
事業の内容・方法		事業の内容・方法を実施する際の障害	
*生徒の選択によるレベル別コースにて実施 ①「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」(上級編) ②「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」(中級編) ③「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」(基本編) ④「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」(初級編) *授業終了後、希望者への個別相談		学校側の理解が得られるか コース選択について、生徒が十分に行えるか	
短期目標が達成されたかをみる指標	1. アンケート調査 ①自分が望む性に関するテーマを選択でき、心地よく授業が受けられたか。 ②性感染症について、リスクを感じたか。 ③性について慎重さの意識が高まったか。 ④自分の健康について、意識が高まったか。		
長期目標が達成されたかをみる指標	1. 実態調査 ①性感染症が減少したか。 ②性交開始年齢が上昇したか。 ③自分の健康のために、取り組みをしている生徒が増えたか。		
従事者(職種)	保健師・養護教諭・保健体育科担当教諭	予算・根拠・法令など	学校保健法・母子保健法・次世代育成支援法

資料2 難易度別コース方式事業企画書「初級編コース企画書」

～「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」(初級編)～

テーマの目的(短期目標) 心と体の健康的な生活習慣について学び、健康的な行動を考える事ができる。

長期目標 性感染症にならないための土台ができ、健康を保つことができる。

過程	時間配分	内容	ねらい	留意点・内容等
導入	3分	今日の流れ 自己紹介	①学習内容を知り、スムーズに授業を受けることができる。 ②自己紹介し、不安を取り除くことができる。	・選択した授業を不快なく受けられるよう、配慮する。 ・保健師(保健センター)の説明を行う(日ごろの活動など簡単に紹介する)
展開	20分	健康とは「健康のイメージ」 自分の生活の振り返り どのような生活が健康か	①健康である状態をイメージすることができる。 ②イメージした健康な状態での生活を考えることができる。	・健康な生活のイメージを考えさせるため、グループワークの実施。 *POINT:心の健康・からだの健康 ・日ごろどのようなことをしたら、健康でいられるのか、自分の生活が振り返られるよう配慮する。 ・グループワークの発表を行い、他の生徒の意見から、気づきを得られるようにする。
	25分	「心と体の健康的な生活習慣」	①心と体が安定した状態について学ぶことができる。 ②健康的な生活習慣について学ぶことができる。 ③自分だけでなく、家族・友人・地域で暮らす人々が健康でないと、健康が保たれないことに気づくことができる。	・講義形式 ・発表の中でできたことをまとめながらすすめていく。 ・発表でできなかったことは、こちらから付け加えていく。 ・生活習慣等チェック表を、使用する。 <内容> ①清潔の維持・外出後のうがい手洗い、入浴、衣服の交換、汚いところに触り込まない 食事のうがい手洗い、歯磨き ②免疫力の向上・生活リズムを整える、睡眠の確保、夜更かししない、長時間のテレビ視聴やテレビゲームをしない、夜の外出(危険が伴う)を控える、食事(バランスの良い食生活とリズム)、ストレス解消、タバコやアルコール、薬物をしない、予防接種
まとめ	7分	まとめ 質疑応答	①わからなかったことがないか、振り返ることができる ②安定した心と体の生活習慣を今後実行する気持ちをもつことができる	・質疑応答を受けつけ、生徒の訴えに応じる。 ・個別の相談については、終了後に時間を設ける。

資料3 難易度別コース方式事業企画書「基本編コース企画書」

～「中学校の教科書にどって、性感染症を学ぼう」(基本編)～

テーマの目的(短期目標) 健康を脅かす感染症のひとつの性感染症を知ることができる。同時に感染している人たちの偏見や差別に気づき、それらへの考え方を学ぶことができる。

長期目標 性に対し、態度が高まる。

過程	時間配分	内容	ねらい	留意点・内容等
導入	3分	今日の流れ 自己紹介	①学習内容を知り、スムーズに授業を受けることができる。 ②自己紹介し、不安を取り除くことができる。	・選択した授業を不快なく受けられるよう、配慮する。 ・保健師(保健センター)の説明を行う(日ごろの活動など簡単に紹介する)
展開	5分	健康とは「健康のイメージ」 自分の生活の振り返り	①健康である状態をイメージすることができる。 ②イメージした健康な状態での生活を考えることができる。	・健康な生活のイメージを考えさせるため、ペーパーに自分の考えをまとめる。 *POINT:心の健康・からだの健康 ・日ごろどのようなことをしたら、健康でいられるのか、自分の生活が振り返られるよう配慮する。
	10分	「心と体の健康的な生活習慣」	①心と体が安定した状態について学ぶことができる。 ②健康的な生活習慣について学ぶことができる。 ③自分だけでなく、家族・友人・地域で暮らす人々が健康でないと、健康が保たれないことに気づくことができる。	・講義形式 ①清潔の維持・外出後のうがい手洗い、入浴、衣服の交換、汚いところに触り込まない 食事のうがい手洗い、歯磨き ②免疫力の向上・生活リズムを整える、睡眠の確保、夜更かししない、長時間のテレビ視聴やテレビゲームをしない、夜の外出(危険が伴う)を控える、食事(バランスの良い食生活とリズム)、ストレス解消、タバコやアルコール、薬物をしない、予防接種 ③感染源に近づかない ④自分だけでなく、周りの人も同じ状態であることが必要。親子の会話も必要。 ⑤悩みは、1人で抱えず、相談する。
	25分	性感染症について	①性感染症が感染症のひとつであるということ、学ぶことができる。 ②性感染症が、身体にかなりの損害をこうむるということを知ることができる。 ③性感染症を、差別したり偏見の目でみることはしないとすることを、覚悟することができる。	・講義形式 ①性感染症とは・身近で、さまざまな感染症のひとつである。 ②性感染症にかかった人に対する考え方・差別や偏見の目で見る必要はない。 ③性感染症の特徴・無症状なため、人に移すことがある、再発や将来にわたり害を及ぼすことがある。 自分の健康が保たれない(苦痛が生じる状態である) ④性感染症のリスク・不妊の原因、他疾患の発生率の上昇、生まれてくる子どもへの影響(母子感染)、死に至ることもある。 ・中学教科書レベルのため、ほとんど『性的接触』の内容には触れない。生徒の反応に配慮し、困難な変化に対応
まとめ	7分	まとめ 質疑応答	①わからなかったことがないか、振り返ることができる ②アンケートの実施により、学びを振り返ることができる。	・質疑応答を受けつけ、生徒の訴えに応じる。 ・個別の相談については、終了後に時間を設ける。

資料4 難易度別コース方式事業企画書「中級編コース企画書」

～「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実態について学ぼう」(中級編)～

テーマの目的(短期目標) 性感染症の脅威を感じ、性行動に対し、一歩立ち止まる思いを持つことができる。

長期目標 性に対し数層が高まり、性行動をとらない

過程	時間配分	内容	ねらい	留意点・内容等
導入	5分	今日の流れ 自己紹介	①学習内容を知り、スムーズに授業を受けることができる。 ②自己紹介し、不安を取り除くことができる。	・選択した授業を不快なく受けられるよう、配慮する。 ・保健師(保健センターの説明を行う(日ごろの活動など簡単に紹介する)) ・保健師は健康への支援をおこなっていることを話しながら少し健康について触れる
	35分	性感染症について	①性感染症とはどのような病気なのか、学ぶことができる。 ②性感染症の、日本の状況を知ることができる。 ③性感染症が、健康を脅かす病気であることを知ることができる。 ④性感染症のリスクを感じるすることができる。 ⑤性感染症にかからないために、性行動への数層を感じるすることができる。	・講義形式 ①性感染症とは・さまざまな感染症の総称、健康を脅かす感染症のひとつ、感染経路について ②性感染症の動向・年次推移、患者数、年齢構成など(増加傾向、若い世代に多い) ③性感染症の特徴・無症状、治療法が無いものが多い、再発、将来にわたり害を及ぼす 自分の健康が保たれない(苦痛が生じる疾患である) ④性感染症のリスク・不妊の原因、他疾患の発生率の上昇、生まれてくる子どもへの影響(母子感染)、妊娠(子宮外妊娠など)や出産により死に至ることもある(妊産婦死亡率) ⑤性行動によるリスク・性行動を
まとめ	10分	まとめ 質疑応答	①わからなかったことがないか、振り返ることができる ②アンケートの実施により、学びを振り返ることができる。	・質疑応答を受けつけ、生徒の訴えに応じる。 ・個別の相談については、終了後に時間を設ける。

資料5 難易度別コース方式事業企画書「上級編コース企画書」

～「質疑応答を中心に、対話方式で感染症の予防について」(上級編)～

テーマの目的(短期目標) 性感染症にかかって体に大きな損害をこうむらないために、性行動に対し一歩踏みとどまる気持ちもてる。

長期目標 性に対し数層が高まり、性の問題に直面しないよう、社会的に独立するまで性行動をとらない。

過程	時間配分	内容	ねらい	留意点
導入	5分	今日の流れ 自己紹介	①学習内容を知り、スムーズに授業を受けることができる。 ②自己紹介し、不安を取り除くことができる。	・選択した授業を不快なく受けられるよう、配慮する。 ・保健師(保健センターの説明を行う(日ごろの活動など簡単に紹介する))
展開	15分	性感染症について	①性感染症とはどのような病気なのか、学ぶことができる。 ②性感染症の、日本の状況を知ることができる。 ③性感染症が、健康を脅かすこと(害・症状など)を知ることができる。 ④性感染症のリスク(事後など)を感じるすることができる。 (性感染症のあるしさを理解できる) ⑤性感染症にかからないために、性行動への数層を感じるすることができる。 ⑥性感染症のリスクを回避するための行動を考え、性行動に対し一歩踏みとどまること(服薬の予防策) ⑦性交後のトラブルに対処できる知識もてる。 ⑧1→2にならない行動を考えること	・講義と質疑応答形式 *現状知識の確認→アンケートの回収 ①性感染症とは・感染の三原則、性行動による感染症、身近なもの ②性感染症の動向・年次推移、患者数、年齢構成など *AIDSや性感染症各疾患(グラフ) ③性感染症の特徴・無症状、治療法が無いものが多い、再発、将来にわたり害を及ぼす 自分の健康が保たれない(苦痛が生じる疾患である) (各疾患ごとの特徴についても説明) ④性感染症のリスク・不妊の原因、他疾患の発生率の上昇、生まれてくる子どもへの影響(母子感染)、死に至ることもある、 妊産婦死
	20分	性感染症について (質疑応答形式と個別相談)	①自分の身体に応じたアドバイスができ、不安軽減につながる ②自分に必要な情報を得て、今後の行動につなげることができる	性感染症によってもたらされるリスクについて話し合う ・性行動しない事が、性感染症予防になることを伝える ・避妊すればOKという誤解を与えない ・生徒の声を傾聴し、緊急性のある相談があった場合の対応について、保健師間と担当教員で事前に話ししておくことが必要 ・相談内容は学校へ提示するかどうか(匿名?) ・プライバシーを必ず確保する
まとめ	5分	まとめ 質疑応答	①わからなかったことがないか、振り返ることができる	・質疑応答を受けつけ、生徒の訴えに応じる。 ・個別の相談については、終了後に時間を設ける。

中学生における親子関係・環境と性意識との関連に関する研究

鈴木 茜 千葉県印西市中央保健センター
松浦 賢長 福岡県立大学看護学部地域国際看護学

中学3年生を対象に、親子関係・環境と性に関する意識との関連をみるための調査をおこなった。得られた知見を以下に示す。

1. 82.9%の生徒は普段から親子で会話をしていた。
2. 親子のつながり感と親と充実した時間が過ごせているとの関係、親子の会話と親子のつながり感との関係、親子の会話と親と充実した時間が過ごせているとの関係には、有意な関連があった。
3. 家庭内は過ごしやすい環境と感じている生徒が80.6%であった。
4. 家庭内は過ごしやすい環境と感じている生徒のほうが、良好な親子関係にあった。
5. 他年代世代との交流は、男子が49.2%、女子が58.6%であり、女子に多かった。
6. 普段の友達との会話と群れ遊びの経験には、有意な関連があった。
7. 対象の中学3年生で、性について興味があったのは36.2%であった。
8. 男子に多かった性のイメージは「あまり聞きたくない」「誰でも性に興味を持つと思わないで欲しい」であった。
9. 女子に多かった性のイメージは「聞きたい」「当たり前のこと」であった。
10. 普段、友達と会話をしている生徒のほうが、性について興味があることがわかった。

I. 研究の目的

親子関係や子どもたちを取り巻く環境と性意識・性行動には関連があることが、最近の研究（北村邦夫分担班）からわかっている。今回、中学生の親子関係や子どもたちを取り巻く環境と、性に関する意識を、質問紙により調査し、それらの関連をみたので報告する。

II. 研究の方法

1. 対象

千葉県印西市立印西中学校3年生131名である。

2. 方法

平成16年10月20日、千葉県印西市市立印西中学校3年生を対象に性の健康教育を保健師が実施した際、受講した生徒を対象に自記式質問紙により調査を実施した。講義の前後にそれぞれ調査をおこなった項目があり、それについては事前と事後を分けて検討する。

3. 調査内容

- (1) 親子関係（日常会話、親とのつながり感、

親と充実した時間を過ごせている状況）

- (2) 取り巻く環境（家庭内環境、地域環境）
- (3) 交流関係（他世代交流状況、ボランティア活動経験、同性との群れ遊び体験、友人との会話状況）
- (4) 親子の性の会話（父親との性に関する会話、母親との性に関する会話）
- (5) 性に関する意識（性への興味、性に関する困りごとや心配ごと、性教育の授業での選択したコースの状況）

III. 結果

1. 親子関係について

親子関係は、全体的に良好であることがわかった。82.9%の生徒が普段から親子で会話をし、81.4%の生徒が親とのつながり感をもち、77.6%の生徒が親と充実した時間を過ごせていることがわかった。

女子のほうが親子の会話がなされ、親子のつながり感があり、親と充実した時間を過ごせていると感じていることがわかった（表1～3）。

また、親子のつながり感と親と充実した時間が

過ごせている、親子の会話と親子のつながり感、親子の会話と親と充実した時間を過ごせている、の3つの組み合わせにおいて、それぞれ有意な関連があった(表4~6)。

2. 取り巻く環境

過ごしやすい家庭内環境と感じている生徒は、80.6%いることがわかった。一方、19.4%の生徒の家庭内環境は子どもたちが過ごしやすいものでないと感じる環境であることもわかった。性差はみられなかった。過ごしやすい地域環境と感じている生徒は88.3%いることがわかった(表7,8)。

3. 取り巻く環境と親子関係

家庭内環境と親子の会話、家庭内環境と親とのつながり感、家庭内環境と親と充実した時間を過ごせている、のそれぞれの関連をみると(表9~11)、いずれも家庭内環境が安定していると感じている生徒は、良好な親子関係にあると回答していることがわかった。

4. 交流関係

他年代世代との交流があるのは、男子が49.2%、女子が58.6%であった。女子のほうが、他年代世代との交流があることがわかり、性差がみられた(表12)。

ボランティア活動経験は、「現在活動している」「以前活動したことがある」合わせて女子のほうに経験率は高かったが、性差はなかった(表13)。

群れ遊び経験は、男子のほうに経験率は多少高かったが、性差はなかった(表14)。

普段の友達との会話は、女子のほうに話している割合は多少高い傾向にあったが、性差はなかった(表15)。

群れ遊び経験と普段の友達との会話には、有意な関連があることがわかった(表16)。

5. 親子の性の会話

普段父親や母親と性に関する会話をよくしている生徒は、3%に満たないことがわかった(表17,18)。父親との性の会話をする生徒は2.3%、母親と性の会話をする生徒は8.4%であった。父親よりも母親と性に関する会話をしている生徒が、若干多いことがわかった。

父親との性に関する会話には性差はなかった。母親との性に関する会話には、男子よりも女子のほうに会話している生徒が有意に多かった。

6. 性に関する意識

対象となった中学3年生で性について興味がある生徒は、全体では36.2%であることがわかった。また男女別にみると女子に興味がある生徒の割合が高い傾向にあったが、有意差はなかった(表19)。

講義の事前調査における性のイメージに関して、性差がみられた項目を示す。女子よりも男子に多かったのは「あまり聞きたくない」「誰でも性に興味を持つと思わないで欲しい」であり、男子より女子に多かった項目は「聞きたい」「当たり前のこと」であった。

講義の事後調査における性のイメージに関しては、女子よりも男子に多かったのは事前調査と同様に「あまり聞きたくない」「誰でも性に興味を持つと思わないで欲しい」であった。男子より女子に多かった項目はなかった(表20)。

性のイメージ(講義の事前調査)と父親および母親との性の会話との関連をみた(4段階回答を2段階回答に変換し解析した)。表21のとおり、父親・母親と性の会話をしていない生徒では「あまり聞きたくない」「うしろめたい」「気軽な感じ」「大人な感じ」「もっと知りたい」「誰もが性に興味を持つと思わないで欲しい」「誰もが性のトラブルについて直面する可能性があると思わない」が、また父親・母親と性の会話をしている生徒では「自分には関係ない」「恥ずかしい」「話しづらい」「まだ早い」でいずれも高い割合になっていることがわかった。性のイメージと親子の性の会話との関係には、有意差はなかった。

難易度別コースの選択については、中級編のレベルを選択した生徒の割合が最も高かった。男女別にみると、男子では基本編、女子では中級編を選択したものが最も多かった(表22)。

性の興味と性に関する授業の選択との関係については、中級編では「少し興味がある」、基本編と初級編では「あまり興味がない」が最も多かったが、有意差はなかった(表23)。

性の興味と父親・母親との性に関する会話については、ともに親と性に関する会話をしている生徒のほうに性についての興味があることがわかつ

たが、有意な関連はなかった（表24, 25）。

普段友達と会話をしている生徒と性についての興味との関係については、有意差がみられた。普段、友達と話しをする生徒のほうが、性について興味があることがわかった（表26）。

「親子の会話」「親子のつながり感」「親と充実時間を過ごすことができる」「家庭内環境」「地域環境」と性の興味との関連は、今回の調査ではいずれも有意差はなかった。

性について困っている事や心配事がある生徒は、今回の調査では7名（5.4%）と少なかった。

IV. 考察

表27は、学校が生徒に実施した、「性のイメージ」に関する意識調査からの結果である。「何とも思わない」が最も多かった。

思春期にある子どもたちにおいては、性に対する何らかの思い入れが希薄化しており、無関心である、もしくはあまり興味を持っていない生徒が多いことが推測される。これは他所で論じられている性の特別視の低さに関連することだと考えられる。

性に対しての特別視があつてこそ、生への特別視が生まれるといえる。性の特別視が醸成されていない状況では、「生命を尊重する精神」を養うという（学校の）性教育の目的が達成されることが困難になるとも考えている。

V. まとめ

中学3年生を対象に、親子関係・環境と性に関する意識との関連をみるための調査をおこなった。得られた知見を以下に示す。

1. 82.9%の生徒は普段から親子で会話をしてきた。
2. 親子のつながり感と親と充実した時間が過

せているとの関係、親子の会話と親子のつながり感との関係、親子の会話と親と充実した時間が過ごせているとの関係には、有意な関連があった。

3. 家庭内は過ごしやすい環境と感じている生徒が80.6%であった。
4. 家庭内は過ごしやすい環境と感じている生徒のほうが、良好な親子関係にあった。
5. 他年代世代との交流は、男子が49.2%、女子が58.6%であり、女子に多かった。
6. 普段の友達との会話と群れ遊びの経験には、有意な関連があった。
7. 対象の中学3年生で、性について興味があったのは36.2%であった。
8. 男子に多かった性のイメージは「あまり聞きたくない」「誰でも性に興味を持つと思わないで欲しい」であった。
9. 女子に多かった性のイメージは「聞きたい」「当たり前のこと」であった。
10. 普段、友達と会話をしている生徒のほうが、性について興味があることがわかった。

VII. 参考文献

1. 佐藤邦夫，他：性に関する知識意識行動について，厚生科研（子ども家庭総合研究事業）男女の生活と意識に関する調査報告書，2002年
2. 松浦賢長，他：学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究～性教育学を構築していくための試練の第一歩として～，厚生労働科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告書，2004年
3. 松浦賢長：新しい時代の性教育を考える～思春期の性問題に対する現行学校性教育の限界～，JASE研究月報，2004年5月
4. 松浦賢長：いのちを教える，児童心理臨時増刊号，2005年1月

表1 普段の親子の会話状況

		親子の会話				合計
		よく話しをする	ある程度話しをする	あまり話しをしない	全く話しをしない	
性別	男子	20人 (33.9%)	24人 (40.7%)	8人 (13.6%)	7人 (11.9%)	59人 (100%)
	女子	43人 (61.4%)	20人 (28.6%)	5人 (7.1%)	2人 (2.9%)	70人 (100%)
合計		63人 (48.8%)	44人 (34.1%)	13人 (10.1%)	9人 (7.0%)	129人 (100%)

p<0.05 (有意差あり)

表2 親とのつながり感

		親とのつながり感				合計
		十分持てている	ある程度持てている	あまり持てていない	全く持てていない	
性別	男子	11人 (18.6%)	29人 (49.2%)	11人 (18.6%)	8人 (13.6%)	59人 (100%)
	女子	38人 (54.3%)	27人 (38.6%)	5人 (7.1%)	0人 (0.0%)	70人 (100%)
合計		49人 (38.0%)	56人 (43.4%)	16人 (12.4%)	8人 (6.2%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表3 親と充実した時間を過ごしている状況

		親と充実した時間を過ごせている				合計
		十分過ごせている	ある程度過ごせている	あまり過ごせていない	全く過ごせていない	
性別	男子	11人 (18.6%)	28人 (47.5%)	13人 (22.0%)	7人 (11.9%)	59人 (100%)
	女子	31人 (44.3%)	30人 (42.9%)	9人 (12.9%)	0人 (0.0%)	70人 (100%)
合計		42人 (32.6%)	58人 (45.0%)	22人 (17.1%)	7人 (5.4%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表4 親と充実した時間が過ごせていると親とのつながり感との関係

		親子のつながり感				合計
		十分持てている	ある程度持てている	あまり持てていない	全く持てていない	
親との充実した時間を過ごせている	十分過ごせている	30人 (61.2%)	18人 (36.7%)	1人 (2.0%)	0人 (0.0%)	49人 (100%)
	ある程度過ごせている	10人 (17.9%)	35人 (62.5%)	10人 (17.9%)	1人 (1.8%)	56人 (100%)
	あまり過ごせていない	2人 (12.5%)	4人 (25.0%)	10人 (62.5%)	0人 (0.0%)	16人 (100%)
	全く過ごせていない	0人 (0.0%)	1人 (12.5%)	1人 (12.5%)	6人 (75.0%)	8人 (100%)
合計		42人 (32.6%)	58人 (45.0%)	22人 (17.1%)	7人 (5.4%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表5 親子の会話と親とのつながり感との関係

		親子のつながり感				合計
		十分持てている	ある程度持てている	あまり持てていない	全く持てていない	
親子の会話	よく話しをする	38人 (60.3%)	24人 (38.1%)	1人 (1.6%)	0人 (0.0%)	63人 (100%)
	ある程度話しをする	9人 (20.5%)	24人 (54.5%)	9人 (20.5%)	2人 (4.5%)	44人 (100%)
	あまり話しをしない	2人 (15.4%)	5人 (38.5%)	5人 (38.5%)	1人 (7.7%)	13人 (100%)
	全く話しをしない	0人 (0.0%)	3人 (33.3%)	1人 (11.1%)	5人 (55.6%)	9人 (100%)
合計		49人 (38.0%)	56人 (43.4%)	16人 (12.4%)	8人 (6.2%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表6 親子の会話と親と充実した時間を過ごせているとの関係

		親との充実した時間を過ごせている				合計
		十分過ごせている	ある程度過ごせている	あまり過ごせていない	全く過ごせてない	
親子の会話	よく話しをする	31人 (49.2%)	28人 (44.4%)	4人 (6.3%)	0人 (0.0%)	63人 (100%)
	ある程度話しをする	9人 (20.5%)	23人 (52.3%)	11人 (25.0%)	1人 (2.3%)	44人 (100%)
	あまり話しをしない	1人 (7.7%)	5人 (38.5%)	6人 (46.2%)	1人 (7.7%)	13人 (100%)
	全く話しをしない	1人 (11.1%)	2人 (22.2%)	1人 (11.1%)	5人 (55.6%)	9人 (100%)
合計		42人 (32.6%)	58人 (45.0%)	22人 (17.1%)	7人 (5.4%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表7 過ごしやすい家庭内環境状況

		過ごしやすい家庭内環境になっている				合計
		十分なっている	ある程度なっている	あまりなっていない	全くなっていない	
性別	男子	16人 (27.1%)	30人 (50.8%)	10人 (16.9%)	3人 (5.1%)	59人 (100%)
	女子	26人 (37.1%)	32人 (45.7%)	10人 (14.3%)	2人 (2.9%)	70人 (100%)
合計		42人 (32.6%)	62人 (48.1%)	20人 (15.5%)	5人 (3.9%)	129人 (100%)

(有意差なし)

表8 過ごしやすい地域環境状況

		過ごしやすい地域環境になっている				合計
		十分なっている	ある程度なっている	あまりなっていない	全くなっていない	
性別	男子	15人 (25.4%)	34人 (57.6%)	6人 (10.2%)	4人 (6.8%)	59人 (100%)
	女子	24人 (34.3%)	41人 (58.6%)	4人 (5.7%)	1人 (1.4%)	70人 (100%)
合計		39人 (30.2%)	75人 (58.1%)	10人 (7.8%)	5人 (3.9%)	129人 (100%)

(有意差なし)

表9 家庭内環境と親子の会話との関係

		親子の会話				合計
		よく話しをする	ある程度話しをする	あまり話しをしない	全く話しをしない	
家庭内は過ごしやすい環境になっているか	十分になっている	32人 (76.2%)	7人 (16.7%)	2人 (4.8%)	1人 (2.4%)	42人 (100%)
	ある程度になっている	24人 (38.7%)	26人 (41.9%)	9人 (14.5%)	3人 (4.8%)	62人 (100%)
	あまりなっていない	5人 (25.0%)	11人 (55.0%)	1人 (5.0%)	3人 (15.0%)	20人 (100%)
	全くなっていない	2人 (40.0%)	0人 (0.0%)	1人 (20.0%)	2人 (40.0%)	5人 (100%)
合計		63人 (48.8%)	44人 (34.1%)	13人 (10.1%)	9人 (7.0%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表10 家庭内環境と親子のつながり感との関係

		親子のつながり感				合計
		十分持てている	ある程度持てている	あまり持てていない	全く持てていない	
家庭内は過ごしやすい環境になっているか	十分になっている	28人 (66.7%)	13人 (31.0%)	1人 (2.4%)	0人 (0.0%)	42人 (100%)
	ある程度になっている	18人 (29.0%)	32人 (51.6%)	10人 (16.1%)	2人 (3.2%)	62人 (100%)
	あまりなっていない	1人 (5.0%)	11人 (55.0%)	5人 (25.0%)	3人 (15.0%)	20人 (100%)
	全くなっていない	2人 (40.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	3人 (60.0%)	5人 (100%)
合計		49人 (38.0%)	56人 (43.4%)	16人 (12.4%)	8人 (6.2%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表11 家庭内環境と親と充実した時間が過ごせているとの関係

		親との充実した時間を過ごせている				合計
		十分過ごせている	ある程度過ごせている	あまり過ごせていない	全く過ごせていない	
家庭内は過ごしやすい環境になっているか	十分になっている	30人 (71.4%)	12人 (20.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	42人 (100%)
	ある程度になっている	11人 (26.2%)	37人 (63.8%)	14人 (63.6%)	0人 (0.0%)	62人 (100%)
	あまりなっていない	1人 (2.4%)	7人 (12.1%)	8人 (36.4%)	4人 (57.1%)	20人 (100%)
	全くなっていない	0人 (0.0%)	2人 (3.4%)	0人 (0.0%)	3人 (42.9%)	5人 (100%)
合計		42人 (100%)	58人 (100%)	22人 (100%)	7人 (100%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表12 他年代世代との交流状況

		他年代世代との交流				合計
		よくある	時々ある	あまりない	全くない	
性別	男子	5人 (8.5%)	24人 (40.7%)	20人 (33.9%)	10人 (16.9%)	59人 (100%)
	女子	14人 (20.0%)	27人 (38.6%)	27人 (38.6%)	2人 (2.9%)	70人 (100%)
合計		19人 (14.7%)	51人 (39.5%)	47人 (36.4%)	12人 (9.3%)	129人 (100%)

p<0.05 (有意差あり)

表13 ボランティア活動経験

		ボランティア活動経験				合計
		現在活動している	以前活動したことがある	全く活動したことがない	わからない	
性別	男子	2人 (3.4%)	40人 (67.8%)	7人 (11.9%)	10人 (16.9%)	59人 (100%)
	女子	6人 (8.6%)	49人 (70.0%)	2人 (2.9%)	13人 (18.6%)	70人 (100%)
合計		8人 (6.2%)	89人 (69.0%)	9人 (7.0%)	23人 (17.8%)	129人 (100%)

(有意差なし)

表14 群れ遊び経験

		群れ遊び経験				合計
		よくしていた	時々していた	あまりしていなかった	全くしていなかった	
性別	男子	31人 (52.5%)	22人 (37.3%)	2人 (3.4%)	4人 (6.8%)	59人 (100%)
	女子	33人 (47.1%)	25人 (35.7%)	10人 (14.3%)	2人 (2.9%)	70人 (100%)
合計		64人 (49.6%)	47人 (36.4%)	12人 (9.3%)	6人 (4.7%)	129人 (100%)

(有意差なし)

表15 普段の友達との会話

		普段の友達との会話				合計
		よく話しをする	時々話しをする	あまり話しをしない	全く話しをしない	
性別	男子	51人 (86.4%)	6人 (10.2%)	2人 (3.4%)	0人 (0.0%)	59人 (100%)
	女子	68人 (97.1%)	1人 (1.4%)	1人 (1.4%)	0人 (0.0%)	70人 (100%)
合計		119人 (92.2%)	7人 (5.4%)	3人 (2.3%)	0人 (0.0%)	129人 (100%)

(有意差なし)

表16 群れ遊び経験と友達との会話との関係

		普段の友達との会話				合計
		よく話しをする	時々話しをする	あまり話しをしない	全く話しをしない	
群れ遊び経験	よくしていた	64人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	64人 (100%)
	時々していた	41人 (87.2%)	5人 (10.6%)	1人 (2.1%)	0人 (0.0%)	47人 (100%)
	あまりしていなかった	10人 (83.3%)	1人 (8.3%)	1人 (8.3%)	0人 (0.0%)	12人 (100%)
	全くしていなかった	4人 (66.7%)	1人 (16.7%)	1人 (16.7%)	0人 (0.0%)	6人 (100%)
合計		119人 (92.2%)	7人 (5.4%)	3人 (2.3%)	0人 (0.0%)	129人 (100%)

p<0.01 (有意差あり)

表17 普段の父親との性に関する会話状況

		父親との性の会話				合計
		よくしている	ある程度している	あまりして いない	全くして いない	
性別	男子	1人 (1.6%)	0人 (0.0%)	9人 (14.8%)	51人 (83.6%)	61人 (100%)
	女子	2人 (2.9%)	0人 (0.0%)	4人 (5.8%)	63人 (91.3%)	69人 (100%)
合計		3人 (2.3%)	0人 (0.0%)	13人 (10.0%)	114人 (87.7%)	130人 (100%)

(有意差なし)

表18 普段の母親との性に関する会話状況

		母親との性の会話				合計
		よくしている	ある程度している	あまりして いない	全くして いない	
性別	男子	0人 (0.0%)	1人 (1.6%)	8人 (13.1%)	52人 (85.2%)	61人 (100%)
	女子	2人 (2.9%)	8人 (11.4%)	17人 (24.3%)	43人 (61.4%)	70人 (100%)
合計		2人 (1.5%)	9人 (6.9%)	25人 (19.1%)	95人 (72.5%)	131人 (100%)

p<0.05 (有意差あり)

表19 性についての興味

		性についての興味				合計
		興味がある	少し興味がある	あまり興味 がない	全く興味は ない	
性別	男子	2人 (3.3%)	17人 (28.3%)	24人 (40.0%)	17人 (28.3%)	60人 (100%)
	女子	2人 (2.9%)	26人 (37.1%)	34人 (48.6%)	8人 (11.4%)	70人 (100%)
合計		4人 (3.1%)	43人 (33.1%)	58人 (44.6%)	25人 (19.2%)	130人 (100%)

(有意差なし)

表20 性のイメージ（複数回答）

			あまり聞きたくない	自分には関係ない	恥ずかしい	うしろめたい	話しづらい	まだ早い	危険なこと		
事前	性別	男子	16人 (26.2%)	5人 (8.6%)	16人 (26.2%)	3人 (4.9%)	27人 (44.3%)	17人 (27.9%)	4人 (6.6%)		
		女子	4人 (5.7%)	3人 (4.3%)	22人 (31.4%)	4人 (5.7%)	30人 (42.9%)	26人 (37.1%)	7人 (10.0%)		
	合計		13人 (22.4%) **	5人 (8.6%)	15人 (25.9%)	1人 (1.7%)	24人 (41.4%)	17人 (29.3%)	13人 (22.4%)		
事後	性別	男子	2人 (2.9%)	4人 (5.8%)	18人 (26.1%)	6人 (8.7%)	22人 (31.9%)	25人 (36.2%)	15人 (21.7%)		
		女子	15人 (11.8%)	9人 (7.1%)	33人 (26.0%)	7人 (5.5%)	46人 (36.2%)	42人 (33.1%)	28人 (22.0%)		
	合計		20人 (15.3%) **	8人 (6.1%)	38人 (29.0%)	7人 (5.3%)	57人 (43.5%)	43人 (32.8%)	11人 (8.4%)		
			聞きたい	当たり前のこと	気軽な感じ	大人な感じ	もっと知りたい	誰もが性に興味をもつと思わないで欲しい	誰もが性のトラブルについて直面する可能性があると思わない	合計	
事前	性別	男子	2人 (3.3%)	8人 (13.1%)	3人 (4.9%)	10人 (16.4%)	5人 (8.2%)	10人 (16.4%)	2人 (3.3%)	61人 (100%)	
		女子	10人 (14.3%)	24人 (34.3%)	1人 (1.4%)	20人 (28.6%)	6人 (8.6%)	0人 (0.0%)	4人 (5.7%)	70人 (100%)	
	合計		4人 (6.9%) *	15人 (25.9%) **	3人 (5.2%)	14人 (24.1%)	6人 (10.3%)	11人 (19.0%) **	1人 (1.7%)	58人 (100%)	
事後	性別	男子	22人 (31.9%)	24人 (34.8%)	1人 (1.4%)	22人 (31.9%)	13人 (18.8%)	0人 (0.0%)	2人 (2.9%)	69人 (100%)	
		女子	36人 (28.3%)	39人 (30.7%)	4人 (3.1%)	36人 (28.3%)	19人 (15.0%)	11人 (8.7%)	3人 (2.4%)	127人 (100%)	
	合計		12人 (9.2%)	32人 (24.4%)	4人 (3.1%)	30人 (22.9%)	11人 (8.4%)	10人 (7.6%) **	6人 (4.6%)	131人 (100%)	

(性差に有意な関連あり：***・p<0.01, **・p<0.05)

表21 性のイメージ事前調査（複数回答）と父親および母親との性の会話との関係

		あまり聞きたくない	自分には関係ない	恥ずかしい	うしろめたい	話しづらい	まだ早い	危険なこと		
父親との性会話	している	0人 (0.0%)	1人 (33.3%)	2人 (66.7%)	0人 (0.0%)	2人 (66.7%)	2人 (66.7%)	0人 (0.0%)		
	していない	20人 (15.7%)	7人 (5.5%)	36人 (28.3%)	7人 (5.5%)	55人 (43.3%)	41人 (32.3%)	10人 (7.9%)		
母親との性会話	している	1人 (9.1%)	1人 (9.1%)	5人 (45.5%)	0人 (0.0%)	5人 (45.5%)	4人 (36.4%)	1人 (9.1%)		
	していない	19人 (15.8%)	7人 (5.8%)	33人 (27.5%)	7人 (5.8%)	52人 (43.3%)	39人 (32.5%)	10人 (8.3%)		
		聞きたい	当たり前のこと	気軽な感じ	大人な感じ	もっと知りたい	誰もが性に興味をもつと思わないで欲しい	誰もが性のトラブルについて直面する可能性があると思わない	合計	
父親との性会話	している	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	3人 (100%)	
	していない	11人 (8.7%)	32人 (25.2%)	4人 (3.1%)	30人 (23.6%)	11人 (8.7%)	10人 (7.9%)	6人 (4.7%)	127人 (100%)	
母親との性会話	している	1人 (9.1%)	5人 (45.5%)	0人 (0.0%)	1人 (9.1%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	11人 (100%)	
	していない	11人 (9.2%)	27人 (22.5%)	4人 (3.3%)	29人 (24.2%)	11人 (9.2%)	10人 (8.3%)	6人 (5.0%)	120人 (100%)	

(父親、母親、いずれも、性の会話の有無との有意差なし)

(注意) 性の会話については、4段階を2段階に変換し処理。

- 「十分にしている」「ある程度している」・・・「している」
- 「あまりしていない」「全くしていない」・・・「していない」

表22 性に関する授業の選択コース

(※注：下記表)		選択コース				合計
		上級編	中級編	基本編	初級編	
性別	男子	1人 (1.6%)	18人 (29.5%)	26人 (42.6%)	16人 (26.2%)	61人 (100%)
	女子	1人 (1.4%)	32人 (45.7%)	16人 (22.9%)	21人 (30.0%)	70人 (100%)
合計		2人 (1.5%)	50人 (38.2%)	42人 (32.1%)	37人 (28.2%)	131人 (100%)

(有意差なし)

※ (注表)

コース	内容
上級編	「性感染症について多少の知識があるので、質疑応答を中心に、対話形式で性感染症の予防について」
中級編	「中学校の教科書を基本に、少し詳しく性感染症の実際について学ぼう」
基本編	「中学校の教科書にそって、性感染症を学ぼう」
初級編	「性感染症にかからないための、心と体の健康的な生活習慣を学ぼう」

表23 性の興味と性に関する授業の選択コース

		選択コース				合計
		上級編	中級編	基本編	初級編	
性についての興味	興味がある	0人 (0.0%)	1人 (25.0%)	2人 (50.0%)	1人 (25.0%)	4人 (100%)
	少し興味がある	1人 (2.3%)	25人 (58.1%)	10人 (23.3%)	7人 (16.3%)	43人 (100%)
	あまり興味がない	1人 (1.7%)	20人 (34.5%)	19人 (32.8%)	18人 (31.0%)	58人 (100%)
	全く興味はない	0人 (0.0%)	4人 (16.0%)	11人 (44.0%)	10人 (40.0%)	25人 (100%)
合計		2人 (1.5%)	50人 (38.5%)	42人 (32.3%)	36人 (27.7%)	130人 (100%)

(有意差なし)

表24 父親との性に関する会話と性の興味との関係

		性についての興味				合計
		興味がある	少し興味がある	あまり興味がない	全く興味はない	
父親との性に関する会話	十分している	1人 (33.3%)	1人 (33.3%)	1人 (33.3%)	0人 (0.0%)	3人 (100%)
	ある程度している	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
	あまりしていない	1人 (7.7%)	7人 (53.8%)	5人 (38.5%)	0人 (0.0%)	13人 (100%)
	全くしていない	2人 (1.8%)	34人 (30.1%)	52人 (45.0%)	25人 (22.1%)	113人 (100%)
合計		4人 (3.1%)	42人 (32.6%)	58人 (44.6%)	25人 (19.4%)	129人 (100%)

p<0.05 (有意差あり)

表25 性の興味と母親との性に関する会話との関係

		性についての興味				合計
		興味がある	少し興味がある	あまり興味がない	全く興味はない	
母親との性に関する会話	十分している	1人 (50.0%)	1人 (50.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	2人 (100%)
	ある程度している	0人 (0.0%)	4人 (44.4%)	4人 (44.4%)	1人 (11.1%)	9人 (100%)
	あまりしていない	0人 (0.0%)	14人 (56.0%)	9人 (36.0%)	2人 (8.0%)	25人 (100%)
	全くしていない	3人 (3.2%)	24人 (25.5%)	45人 (47.9%)	22人 (23.4%)	94人 (100%)
合計		4人 (3.1%)	43人 (33.1%)	58人 (44.6%)	25人 (19.2%)	130人 (100%)

p<0.05 (有意差あり)

表26 普段の友達との会話と性の興味との関係

		性についての興味				合計
		興味がある	少し興味がある	あまり興味がない	全く興味はない	
普段の友達との会話	十分している	3人 (2.5%)	43人 (36.4%)	49人 (41.5%)	23人 (19.5%)	118人 (100%)
	ある程度している	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	6人 (85.7%)	1人 (14.3%)	7人 (100%)
	あまりしていない	1人 (33.3%)	1人 (33.3%)	1人 (33.3%)	1人 (33.3%)	3人 (100%)
	全くしていない	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (100%)
合計		4人 (3.1%)	43人 (33.1%)	56人 (43.8%)	25人 (19.5%)	128人 (100%)

p<0.05 (有意差あり)

表27 性のイメージ(印西中学校3年生実施:H16)

	恥ずかしい	いやらしい	考えたくない	不安	何とも思わない	自然	知りたい	大切	すばらしい	合計
人 (%)	12人 (9.2%)	6人 (4.6%)	10人 (7.6%)	2人 (1.5%)	47人 (35.9%)	35人 (26.7%)	3人 (2.3%)	12人 (9.2%)	4人 (3.1%)	131人 (100%)

学童期の子どもたちを取り巻く環境と関係に関する研究

鈴木 茜	千葉県印西市中央保健センター
谷川紗智子	千葉県印西市中央保健センター
高柳貴久子	千葉県酒々井町保健センター
中野 郁	千葉県酒々井町保健センター
好川史帆里	千葉県酒々井町保健センター
木下 寿美	千葉県印旛保健所
梅田奈津子	千葉県印旛保健所
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部地域・国際看護学

約3300人の小学生の保護者を対象に、学童期の子どもたちを取り巻く環境と関係に関する調査をおこなった。学童期の次のライフステージである思春期保健への寄与を目的として、得られた現状から今後の地域保健で取り組むべき課題について検討した。

1. 学校性教育の内容を51.2%の保護者は把握していなかった。
2. 子どもの性の関心度や成熟度を把握していない保護者は、それぞれ13.2%、35.7%であった。
3. 保護者の認識においては、小学生の性の関心度が低い傾向にあった。
4. 保護者の認識においては、小学生の性の成熟度は遅い傾向にあった。
5. 子どもの性の成熟は早いほうと感じている保護者は、女兒をもつ保護者に多かった。女兒のほうが性の会話を親子でしていた。
6. 性の会話をしている親子は、23.9%いた。
7. 親子で性の会話をしているのは、男児が19.5%、女兒が28.8%であり、女兒のほうが多かった。
8. 小学生の子どもの性の発達に困っていることや心配ごとがない保護者は94.2%おり、多かった。
9. 学校性教育への期待は多様であった。
10. 学校性教育への期待は、「命の大切さ」が最も多かった。
11. 今の環境で育った子ども達の未来が明るいと思わない保護者は37.9%いた。
12. 子育て不向き感のある保護者は55.5%いた。

I. 研究の目的

若年妊娠の増加や性行為感染症の低年齢化など、思春期の性に関する問題は母子保健分野の課題のひとつとなっており、健やか親子21の主要課題としてもあげられている。最近では、思春期の性行動は思春期以前からの親子関係、家庭や地域環境、子どもの社会的活動や交流活動など、様々な要因が影響しているという見方が出てきている。

今回、約3300人の小学生の保護者を対象に、学童期の子どもたちを取り巻く環境と関係に関する調査をおこなった。学童期の次のライフステー

ジである思春期保健への寄与を目的として、得られた現状から、今後の地域保健で取り組むべき課題について検討した。

II. 研究の方法

1. 調査対象および方法

小学生をもつ保護者を対象としたアンケート調査を実施した。調査対象となった小学生をもつ保護者の選定については、I市内の小学生をもつ世帯全数(13校、3296人)と、S町職員のうちの小学生をもつ保護者全数(41人)、I保健所職員のうち